

けいじばん

○次回活動日のご案内；4月23日（日）。9時40分森林館駐車場集合。主な活動プログラムは18年度年次総会、18年度活動班編成、植物観察会又は植物調査、ホテイ岬&禁断の岬の水辺清掃、その他班活動、山菜試食会。欠席会員は上記メール又は真鍋昌義宛委任状の提出をお願いします。

○保険加入のお知らせ；ちば里山新聞第6号掲載の「ちば里山ボランティア保険」に加入します。事務上の理由で5月加入になります。4月活動日対応とチェーンソー作業対策は別途検討します。

○班活動へのお誘い；千年の森活動は従来の森林整備中心の活動から、今後貴重種の保全や森の利・活用、地域交流などにウエイトをおく班活動が中心になります。このため会員は一つ以上の班に所属して活動することを基本とし以下の班メンバーを募ります。会員の希望を尊重して4月23日総会后班編成を行います。

班	役割・活動内容	摘要
植物調査班	02年調査リストの05年未確認種を中心に事前調査を行い各季節に応じた調査計画をたて調査・確認・撮影・記録。貴重種保護策の検討、植物観察会の企画・準備も担当。必要に応じて専門家の指導を受ける。	調査は全員作業、班はその段取り。
きのこ班	きのこ観察会の企画、準備。各季節の豊英島自生きのこの観察調査・撮影・リスト・標本作成など。	18年度の調査はイグチ科、テングタケ科。
栽培きのこ班	きのこ栽培方法の学習、きのこ農家との交流、植菌準備と植菌の計画（作業は全員作業）、ほだ場の管理、収穫及び収量調査。	特に君津及び周辺地域会員の参加歓迎。
シカ調査班	ニホンシカの生態学習、島内の棲息・食害状況の調査や食害防護柵設置、駆逐作業などの計画。	作業は全員で行う
木工班	標示・案内板の製作と設置、小型物置の製作など。	
野鳥班	野鳥の観察・撮影・記録	

かつどうのきらく

3月19日（日曜日）曇時々晴 参加会員20名、小平顧問（朝ミーティングのみ）

○小平顧問ごあいさつ；「千年の森」が紹介された森林研究センター編纂の冊子「きのこの森づくり」を全員に配布、（欠席者には次回配布）その紹介を兼ねてご挨拶、久しぶりの小平節、「千年の森」活動への激励の言葉。

○林内巡回調査；17年度整備した巨木林の現状確認、今後の整備の必要性、モミ林エリヤの確認、コナラ更新林の現状確認、シカのフィールドサイン・食害状況、きのこほだ場の環境確認、その他島全体の状況確認のため全員で巡回点検を行った。①巨木林を中心に雪や風による倒木・折れ枝などあり、整備必要な部分が散見される。②ほこら山の保護対象のネズ3本中1本は枯れ死、伐採後放置のカシ及び伐採中止したカシは何らかの処置が必要。③モミ林エリアは、巨木林北部西よりのモミの密度の高い約500㎡を仮指定した。④アオキ、カクレミノ、イヌツゲなどの低木に多数の食痕があるが、一定高さ（1.5m超え）の群落は残存している。低木でもシロダモは嗜好に合わないのか全く健在。シカの足跡は発見できないが、湖からのけものみちなど3箇所に分が発見される。⑤04年植菌ムカデ伏せほだ場は直射日光当たり過乾傾向で、日除けか引越しが必要。⑥禁断の岬などの水辺に湖面から漂着したペットボトル等のごみ散乱多い。

○シイタケ収量調査と試食；なぜか収量少なく03年、04年植え合計770g、05年植えはゼロ。シイタケ以外



自生のキクラゲ (06/3/19 高塚)

のナメコなどの原木に1キロを超えるシイタケ。これは植菌した菌糸が林内で蔓延している証拠。量は少ないが、昼の試食には充分。林内巡回中に発見したキクラゲを試食。初経験のピンク色の生キクラゲ、ホントに大丈夫？という声をよそに「茹米名人の太鼓判があるから大丈夫」と山木さんがサッサと調理し皆で試食、



コリコリとした絶妙な食感。勿論全員無事。 久しぶり賑やかな食事風景

○ニホンシカの話；昼食後ニホンシカに造詣の深い福島会員のシカ談義。（要旨）シカは、カモシカと違って通常は縄張りを作らない。したがって、シカの場合は個体数が増えると集団化して、生息密度が高くなることもある。雄と雌の分布は通常は分かれていることが多く、発情期（9月中旬から10月）になると雄が雌の分布域に入

ってきて交尾のための縄張りをつくる。雄の角は春先から秋にかけて柔らかい袋角となって成長し、発情期になると袋がとれて硬い角になり、春になると自然に落ちる。落ちた角の分布を調べると雄がその時期どこにいたかがわかる。雌は5、6月に出産し、生まれたばかりの子鹿は授乳以外の時間をブッシュに隠れて過ごす。なかなか逃げないために、近づいたときには足元から急に飛び出すことがある。



フン片手にシカ博士のシカ談義

シカのフンとウサギのフン (左2個)

アオキの食痕

(写真はいずれも 06/3/19 高塚)

確認しやすいフィールドサインは、フン、足跡、食痕。フンはウサギとよく似ているが、ウサギがまんじゅう型であるのに対しシカのフンは俵型。(写真参照) 19日島内を踏査した結果、アオキやイヌツゲに多数の食痕が認められ、3カ所でフンを確認した。シカの生息密度が高くなると、低木層の種組成が単純になり特定の植物しかなくなる傾向があり、(房総半島のニホンシカ密度と低木層の組成調査データ配布) 今後島内の生息密度が高くなると植生が変化していく可能性がある。常に島内に生息しているのか、泳いで渡ってきて夏の間だけ生息しているのか、頻りに島内外を行ったり来たりしているのかは現在のところ不明。

○植物調査; 昨年の未確認種のうち早春に開花する植物の確認と、既確認種開花写真撮影を中心に、遊歩道周辺、ホテイ岬、ほこら山周辺の3班に分かれて植物調査を行った。最大の収穫はほこら山班のスハマソウ(千葉県要保護植物:C) 確認。ほこら山北側湖に面する90度近い急斜面を、山岳部OBの高塚さんが先ず降下、男たちも続いて降下し4・5株を発見、残念ながら花期を過ぎ落花しているが、ただ一輪残る白い花の撮影に成功して感激。来年はもう2・3週早い「早春に」ロープを持ってより安全に、最適のシーズンに観察しようと思いつきながら、急斜面をよじ登った。斜面でオウレンを1株見たが花は無くコセリバオウレンかセリバオウレンか不明、撮影しなかったのが悔やまれる。同じ斜面にヒガンマムシグサと奇妙な草本の残骸を発見。この斜面の5~6メートル右のいっそう急角度の斜面を再降下して、数株のスハマソウを確認したが花期を過ぎていた。湖面から登るけものみちにアオキの食痕を散見、千尋の谷をよじ登るシカの身軽さに脱帽。森はあちこちにシュンラン、オニシバリ、ヤブツバキ、アセビ、マメザクラなどの花がいっぱい。



白い花一輪のスハマソウ

ヒガンマムシグサ

これ何?

オニシバリ

シュンラン
(写真はいずれも

06/3/19 高塚)

○直射日光に曝され過乾燥の04年植えムカデ伏せシイタケほだ場をモミの枝で日覆。
○カブトムシ幼虫; 好奇心旺盛な久我則子さんの発見。落ち葉集積場のシートをめくると黒い土の中に丸々と太ったカブトムシの幼虫がゴロリ、ゴロリ。いったいどのぐらいいるのだろうか? 100匹ではきかない。本気で探せば300匹いやもっと多いかも、500匹いるかな? これをどう利用するか? これもこれからの楽しみ。(村野記)

前夜からの暴風雨が活動開始と同時に上がり、天候に恵まれ充実の一日でした。参加の皆様お疲れ様。予報を信じて欠席の皆様残念でした。次回活動日に乞うご期待。



カブトムシ幼虫(久我3/19)